

# 震災ボランティア派遣 FAX通信⑨

2011年5月14日



各組合・地域労連

御中

青森県労働組合総連合

青森市大野字若宮165-19

TEL 017-762-6234、FAX 017-729-2186

メール [ao110@kenrouren.jp](mailto:ao110@kenrouren.jp)

【発信者】事務局長 有馬美恵

## 番外編2

# 被災地で青年たちが組合結成！

★大震災で営業休止 「アルバイトは、1人1万円支給で全員解雇」に怒り組合結成★

### ◆きっかけはインターネット

3月11日の大震災により、仙台コロナ(総合遊技場)は、店頭前に「当面の間営業を休止する」との張り紙を掲示し、店舗責任者は「アルバイトは、1人1万円を支給して全員解雇」と電話で説明したことが、若者たちの怒りに火をつけたのである。この若者たちと全国一般・宮城一般労組との出会いはインターネットであった。彼女たち(若者の多数が女性)はアルバイトの身分で仙台店開設時からの勤務者もあり、平均勤続年数が4年となっている。3月23日、宮城県労連に集まった人数は16人で20歳代から30歳代前半、子どもを持つ人が多数であった。

### ◆悪条件を克服し100人の組合に

組合を立ち上げる時、常に難航するのが役員配置で特に支部長のなり手が一番の苦勞の種である。「組合結成は、怒りが団結の基本、おまかせ型やお願い型はすぐ壊れる」「役員幹部の選出が自主性・積極性、意欲のバロメーターだ」と説明したところ、1分もかからずに支部長はじめ6人の役員が拍手で確認された。

次に問題提起をしたことは、500人を超す仲間にもどのように組合結成の意義と加入を訴えることができるかであった。店が閉店し、口頭での訴えもできず、部門ごとの仕事で面識もなく、同僚の住所録もなく、雲を掴むような悪条件をどう克服するかが課題であった。ヒントは簡単だった。携帯によるツイッター、メールの活用が仲間たちの行動力となったのである。怒りのメールが仲間拡大のスピードをさらに飛躍させたのである。わずか3日間で50人に到達、メーデーまでには100人の組合員が拡大された。若者・彼女たちの作戦は、組合の集会には、メールで呼びかけ意識的に未加入者の参加を促し、その都度、組合加入を訴えていることである。

### ◆60人で団交 優柔不断な態度を追及

初めての団体交渉には60人の仲間たちが参加。会社側の優柔不断な態度を厳しく追及し、会社側に「秋口には営業再開を検討している」との発言を引き出している。若者たちのたたくエネルギーとその団結力に、大いに激励されている。